

2017年度第7回NPO法人共同保存図書館・多摩理事会

- 1 日 時：2018年2月8日（木） 午後6時30分から
- 2 場 所：立川市柴崎学習館 和室（2階） （立川市柴崎町2-15-8）
- 3 議決権のある理事：8名
出席者：座間直壯、齊藤誠一、田中ヒロ、手嶋孝典、堀渡、堀越洋一郎
欠席者：清田義昭、矢崎省三
事務局：吉田光美

4 報告及び協議事項

（1）第1号議案 会員の動向について【報告】

- ・2018年1月31日現在
正会員88名2団体、賛助会員46名1団体、計134名3団体（合計137）
- ・前回の理事会以降、賛助会員として1名の入会があった（12月の多摩デポ講座に参加された市民の方が、その後入会されたもの）。
- ・会費入金状況 2/6 現在未納者 正会員9名、賛助会員10名（未納者には次の「多摩デポ通信」発送時に会費納入のお願い文と、振込票を同封する）。

（2）第2号議案 第3回TAMALAS地域説明会について【報告】

- ・京王線沿線七市連携の市立図書館の合同研修会の企画として、来週2018年2月14日（水）午後2時～4時30分、調布市文化会館たづくり9階研修室を会場に行う。
- ・多摩デポには資料保存の現状や課題をめぐる講義と（株）カーリルによるTAMALASシステムの説明を1時間程度ずつやってほしいと、依頼が来た。
※依頼に対して、以下のようなタイトルで行うことを連絡した。
 - 図書館の資料保存と提供の基盤をめぐって 多摩デポ 堀 渡
 - 蔵書の全体状況を俯瞰しながら仕事に生かす技術 カーリル 吉本龍司
- ・参加予定者の人数については、稲城市3名、多摩市1名、調布市4名、八王子市2名、日野市3名、府中市4名、町田市3名と連絡が来ている。
- ・多摩デポからの参加予定の事務局員：齊藤・田中・手嶋・吉田
- ・（株）カーリルとは、前日の13日（火）夜に、立川市の柴崎学習館で共同研究の定例会があり、そこで打ち合わせができる。

（3）第3号議案 第32回多摩デポ講座の企画について【報告・協議】

- ・テーマ「レファレンス資料としての実用書」（講座）
 - ・公共図書館で全タイトルの保存・維持がきつい場合、保存の除外対象に挙げやすいのが、あいまいな用語であるが「実用書」である。実用書の保存と除籍に関わって、生活実用書やマニュアル本を長期に図書館に残しておけばどういうふうにレファレンス資料として使えるのか、どういう実用書はより使えるのか、といった経験談を専門的な図書館のレファレンス担当者などに話を聞く講座。

（候補）

- ・ 旅の図書館（最寄駅：地下鉄 銀座線青山一丁目）
団体の見学を受け入れているので見学会には良いだろう。

一昨年のリニューアル後には一般向けの旅行関係の実用書などには削減する方向性が出ているようで、今回のテーマには微妙かもしれない。

- ・ 食の文化ライブラリー(最寄駅:地下鉄浅草線 高輪台)
NDC分類では 38、58、59 などの本が多い。
料理や食文化、レストラン関係などの実用書が多い。
- ・ ポーラ文化研究所ポーラ化粧品文化情報センター(最寄駅: J R 五反田)
化粧の文化に関する専門図書館。
- ・ この 3 館から、講師として来ていただける可能性があるか探って決め、実施したい。
- ・ 実施日、2~3 月の平日夜か、週末および月曜の昼か夜。講師の可能な日程で。
- ・ 多摩に出張しての講演会という形式が先方に負担なら、図書館に出向いて図書館の見学会込みでお話しを伺う形でもよいかもしれない。
- ・ 多摩デポ講座は、事業計画では年 3 回の開催予定なので、日程としては 2017 年度の 3 回目としてなるべく年度内に開催できるようにし、まもなく発行する「多摩デポ通信」第 45 号で PR 出来るようにしたい。
→ 討議の結果、以上の方向ですすめることが了承され、事務局で先方と接触、相談をした上で、候補の 3 施設の中から決定することとなった。

(4) 第 4 号議案 (株)カーリルとの共同研究について【報告・協議】

①一括の蔵書確認システムの公開の準備

- ・ できれば今年度内に、多摩地域の図書館に対する公開の動きを作りたい
- ・ 公開・参加のための「システム利用規定(案)」を昨秋から検討してきた。
 - ・ 前回の理事会で出された文言の修正や整合性を含め、再考したものを提案する。(別紙)
→ タイトルを「図書館支援システム」から「一括処理システム」にもどす。文中では「大量一括処理」という用語も使っていたが、「一括処理」に統一する。
 - ・ その他、各文書の形式の統一および「押印」は不要とすることなど、再修正をする。
- ・ 「利用規定」の文案が確定できれば、まず館長会三役に説明して支持を得て、全自治体への公表、賛同に向けて動いていきたい。
- ・ 他に課題は、①利用のための具体的なマニュアル作り
 - ②得られる結果の精度の検証(ダミーデータを使って、このシステムでの一括検索結果と、TAMALAS の個別検索結果を重ね合わせて検証する必要)。
試行・検証用にアクセスする URL をカーリルから教えてもらっている。
 - ③ホームページ上のデザイン等

※スケジュールを切って、これらをやっていく必要がある。

② I S B N が付与されていない資料の同定について

- ・ (株)カーリルから提示された「(仮称)多摩デポ統合検索システム」が現状でどこまで使えるか、1月から2月にかけて、事務局員(とその協力者)で一人3データずつ実験した。
使用したデータは、一昨年に西東京市で除籍に使った I S B N 無し資料データ。
- ・ 書誌のバラつきをどこまで認識し、書誌同定に使えるかを検証している。
- ・ 現在取りまとめ中で、2月13日の定例会にその結果と見える課題を持ち込めるように動いている。
- ・ 現在進行中だが、「2018年総会の議案書案」の中では、この部分は2017年度事業報告でも

2018 年度事業計画でも「検証中」という書き方にしている。

(5) 第5号議案 多摩デポ通信第45号の発行について【報告・協議】

- ・季刊紙なので、通常総会の呼びかけをする春号(4月下旬に発行、総会議案書を同封して発送)の前に冬号を出す必要がある。今年度は、夏号の段階から掲載する講座日程の決定の関係で発行が遅れている。例年なら1月中旬には発行している冬号だが、2月中～下旬には発行したい。

記事予定

第31回多摩デポ講座(見学会)の報告、参加者の感想 2人より入稿済み
多摩デポブックレット第11号『書物の時間—書店店長の想いと行動』感想
2人より入稿済み

共同研究報告…… 一括処理システム公開準備、第3回TAMALAS地域説明会
第32回多摩デポ講座の案内

図書館資料の里親探し…… 最近の動き(里親希望の反響がある)についての報告
岐阜県の職員研修会での講演の報告、同県での動き

絵本紹介(図書館蔵書の爆撃被災とその一冊のレスキューと遍歴エピソード)投稿
ここ数か月間の共同保存問題に関する動き

(6) 第6号議案 2018年度通常総会議案書の検討について【報告・協議】

- ・事務局会議で議論、準備してきた現段階での総会議案書案を事務局から提案する。
- ・提案する文章の修正の指摘とともに、内容の骨子として何を入れるか。
- ・今回は第五号議案として、「定款の変更」を入れる。
- ・第一号議案(2017年度事業報告)では年度内に各事業をどこまでもっていくかの想定や目標。
- ・特にTAMALAS一括処理システムの公開のスケジュール
- ・なかなか進まないリアル共同保存図書館についてどう書くか。
- ・第三号議案(2018年度事業計画)については、第一号議案を受けて書くことになる。
- ・基本方針をどう書くか(バーチャルとリアル両方含めて、全体として)。
- ・個別事業としての「リアル共同保存図書館の準備」をどう書くか。
- ・4月の理事会では「議案書の案」を確定したい。
→いくつかの修正・補強を含め、論議した結果を事務局でまとめ、4月理事会で再提案、確定していく。

(7) 情報交換

- ・第31回多摩デポ講座 『見学会「印刷博物館」と「キンダーブックの90年」展』を実施した。
日時:12月17日(月) 午後1時30分集合 午後2時～4時30分
会場:印刷博物館(文京区水道1-3-3 トップアン小石川ビル 地下)
参加者:19名(うち一般会員4名、理事・事務局6名。会員の参加は10名。会員外9名)
図書館員の現役は府中市3人、中野区(委託職員)1名、高校図書館1人
65歳以上の入館料は無料だったが、この該当者が13人くらいだった。
- ・「キンダーブック展」、「常設展示部分」、活字を拾う「印刷工房」見学、この時期、毎年恒例の「世界のブックデザイン展」で美しい本に出合うなど、データでなく、質量を持ったモノとしての印刷、書物に触れた体験だった。
- ・博物館側に案内してもらった時間以外に自由に見てもらった時間が多かったが、展示物が多いの

で参加者はそれぞれに楽しまれていた。時間が足りないので近いうちに自分でまた来ると言った方が複数おられた。満足された方が多かったと思われる。

- ・企画展の「キンダーブック展」があることで、今は常設展示部分がずいぶん縮小されている印象があった。
- ・多摩デポブックレット第12号の編集
2017年度通常総会記念講演『図書館の「捨てると残す」への期待と不安』の講演者永江朗氏が、テープ起こしだけでは文字量が少ないところを、ご自分で加筆してくれることになった。返送をお願いした期限は既に過ぎているが、原稿をお待ちして進めていきたい。ただしブックレットの制作費は来年度予算となるので、そのあたりを考慮しつつ、すぐに発注できるように準備する。
- ・里親探し事業が12月、1月としばらくぶりに動き出し、提供に出す図書館（2市）とともに、それに応募する（里親になる）図書館にもいくつもの反響があり、現在取りまとめ中である。
- ・塩見昇氏（前日本図書館協会理事長）に総会記念講演として依頼する内容について
事務局会議での検討結果
 - ・塩見氏が市町村立図書館の普及以降の次の段階をどう思い描いていたか（『市民の図書館』の次のプラン、振興政策）。開館後に資料収集・提供を続け、時間の経過とともに、きつくなっていく各館の蔵書の保存についてはどう考えていたか。一方、これまでの現実の各都道府県および県立図書館の資料保存についての動きをどうとらえていたか、その他資料保存について思うことなどを、大局から語っていただけるとよい。また、多摩デポについてのアドバイスを話していただけるとよい。

※ 講演を元にしたブックレット製作、刊行について今年度内に事前に打診し、その結果を来年度計画にも反映させる。
- ・平成29年度東京都多摩地域公立図書館大会について
日程：2018年2月6日（火）～8日（木）／会場：都立多摩図書館2階セミナールーム
 - ・今回は、大規模会の年にあたり、6つの分科会があった。
 - ・第6分科会（本日午後）は、協力担当者会企画の『多摩地域の相互貸借と都立図書館』、講師は高木敦子氏（東京都立中央図書館 管理部長）。
- ・館長協議会の除籍実務担当者会の発足
2月22日、14時～16時、西東京市柳沢図書館で第一回が開催され、発足する予定と聞く。一昨年の保存問題プロジェクトチームの小池館長、中川館長、および館長会三役の方が出席予定のようで、事前に全自治体からアンケートを取っている。この会の動きに注目している。

【多摩デポ記事】

- ・特になし

【共同保存図書館関連論文】

- ・特になし

【読売新聞 多摩版コラム「週刊たま手箱」】

- ・1月17日（水）に、「子どもに学ぶ利用法」（養田明子・執筆）が掲載された。次回は、4月掲載

の予定で原稿を用意してくれと言われている。

- ★ 次回の理事会 2018年4月12日(木) 午後6時30分～
- ☆ 次回の事務局会議 2018年 月 日() 午後6時30分～ 未定
- ★ カーリルとの共同研究 第29回定例会 2018年2月13日(火) 午後6時30分～
立川市柴崎学習館 2階和室

5 議事録署名人の選任

議事録署名人として2名を選任することを諮り、齊藤誠一理事、田中ヒロ理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2018年2月8日

議長

議事録署名人

議事録署名人